

図画工作

目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

児童の状況

- 造形活動を好む児童が多く、題材に対して素直に取り組み、全体的にのびのびと活動しています。
- 道具の使い方に気をつけて、安全に心がけて使おうとしています。
- 個人差が大きく、発想から仕上げに至るまでに時間がかかる児童がみられます。

指導についての課題

- 作品づくりを通して発達段階に応じた経験を積み最後まで意欲的に取り組めるようにすること。
- 自分で考え、発想を広げていく力を付けることで、計画的に活動を進められるようにすること。
- 互いの作品を鑑賞することで良さを認め合い、自分が作った作品に自信をもち、自己肯定感をもてるようにすること。

授業革新推進に向けての具体的な方策

- 自分の想いを大切に、粘り強く取り組ませることで、絵をかいたり物をつくったりする造形活動の楽しさが味わえるような題材を工夫します。
- 様々な素材、材料にふれさせる機会を増やし、想像力を働かせて発想し、創造する力を育てます。
- 自他の作品の違いを認め、楽しさや面白さ、美しさを感じる力を養います。
- 感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の感じや思いを書いたり伝えたりするなど、鑑賞指導を充実していきます。

低学年

- ・簡単な道具の使い方を覚え、色々な作品をつくります。
- ・かいたり、つくったりすることを楽しみます。
- ・自分の作品や友達の作品を大切に、楽しく見るようにします。

中学年

- ・楽しみながら活動し、道具の扱い方に慣れるようにします。
- ・新しい材料や方法で活動を広げ、経験を増やします。
- ・友達の作品の良さや面白さ、美しさを見つけ鑑賞するようにします。

高学年

- ・今までの経験を生かし、様々な道具や材料を使って、自分で計画的に表したいことを表現します。
- ・自分と友達の作品の違いに気付き、それぞれの良さや美しさを認めながら鑑賞します。

◎言語活動の充実

・色や形、材料の感じ等で気付きを深めたり（低学年）、話し合うことで発想や構想を深めたり（中学年）、表現の意図や特徴などを捉えながら、互いの意見を伝え合うことで見方や感じ方を発展できるような（高学年）活動を充実させます。

◎その他（補充・発展指導計画）

- ・必要に応じて、授業以外の時間（休み時間や放課後）に個別指導を行います。
- ・子どもたちがつくった作品を通して、他の学年と交流するようにします。